第１回富山市上下水道事業経営審議会（R6.8.26）審議内容

委 員	コメント等
会　長	（まとめ） ・料金改定も含めてより強靭な経営事業体を考えていくということで合意が得られたものと考えている ・改定のあり方、経営改善のあり方については、今後、議論を進めていく
Ａ委員	・漏水への対策などに対し新技術をどのように活用していくのかを含めて料金のあり方を検討することが必要 ・少ない職員の中で技術継承を考えていくことが必要
Ｂ委員	・インフラの老朽化が進行し、人口が減少する中にあって段階的に値上げすることは妥当 ・値上げ幅を市民に理解していただくことが重要 ・値上げは、投資と収益のバランスが重要 ・能登半島地震を受けて追加対応する投資内容を示す必要がある ・経営効率化に向けた取組（広域化に向けた取組などについて）
Ｃ委員	・上下水道事業は企業と同じく経営であることを市民に理解していただくことが重要 ・安心安全な水があること、水処理に費用がかかっていることを市民に理解していただくことが重要 ・料金値上げは市民に丁寧に説明することが必要 ・収入の多寡にかかわらず水に関するサービスはすべての人が等しく享受するものである
Ｄ委員	・人口減少の中で将来的な値上げは想定できる
Ｅ委員	・限られた財源の中で投資の優先順位をつけることが必要
Ｆ委員	・能登半島地震の発生により市民の水に対する意識が変わった（インフラとしての重要性の認識） ・施設の拡張から維持管理への変遷の中で改定に関しては市民の理解が得られるのではないか ・安心、安全な水が富山市の魅力であり、富山市の良さ（プラスイメージ）を発信することで市民の理解を得られるのではないか
Ｇ委員	・豊かでおいしい水が安く手に入ることは富山市の誇り ・施設の更新にあたっては同じ費用をかけるのであれば新技術を採用することも大切 ・改定にあたっては改定幅は小さくしたほうが良い ・節水をしたらそれが報われる料金が良い ・人口減少と施設の更新などトータルで考えた料金体系の検討が必要
Ｈ委員	・料金の見直しにあたっては、投資をどの程度行うのかが重要 ・投資の優先順位、期間を明らかにすることが必要 ・節水に関する取扱いは、基本料金と従量料金を分けている部分で検討が必要 ・経営効率化で民間委託となっているが、本来業務などは技術継承について考慮すべき
Ｉ委員	・料金の引き上げは避けて通れない ・値上げに関しては丁寧な説明が必要